

遺伝学用語改訂のお知らせ

日本人類遺伝学会では遺伝学用語に関して、次のように改訂する事が決まりましたので報告します。

No	英語	日本語	これまで
1.	genetics	遺伝学「意味：遺伝と多様性の科学」	遺伝学「意味：遺伝の科学」
2.	variation	多様性（バリエーション）	変異（彷徨変異）
3.	mutation	変異（突然変異）	突然変異
4.	variant	多様体（バリエーション）	変異体
5.	mutant	変異体（突然変異体）	突然変異体
6.	locus	座位	遺伝子座
7.	allele	アレル（アレル、アリアル）	対立遺伝子
8.	genotype	遺伝型	遺伝子型

() 内は、許容される用語

改訂の理由

1. 本来 heredity と variation の科学の意味で定義された genetics が heredity のみの科学と解釈されがちな「遺伝学」と訳されたため、カバーする範囲が狭く解釈される傾向にあり、日本社会では「遺伝」が暗いイメージに結び付きやすい。遺伝学という訳語を変化させることはもはや困難であるものの、遺伝学が「遺伝と多様性」の科学であると改めて明確に定義する。
2. 初期の日本の遺伝学者が variation を「変異」と訳し、それを「彷徨変異」と「突然変異」に分類したため、その後の用語と概念が混乱している。また、mutation に「突然変異」という問題のある訳を当てたため、更に用語と概念が混乱した。「突然」の用語は適当ではなく、多くの現在の研究者は「変異」を mutation の意味に用いている。以上の混乱を整理し、世界的な用語と概念に矛盾しないようにするため、variation に「多様性（バリエーションも可）」、mutation に「変異（突然変異も可）」を当てる。これに合わせ、mutant は「変異体（突然変異体も可）」、variant は「多様体（バリエーションも可）」の訳を当てる。多様体は数学では別の意味（manifold）を持つが、使用される分野の違いを考えれば、混乱することはまずないと思われる。また、「多様性」は生物学全体、あるいは生態学では diversity の訳に用いられているが、意味は類似しており、混乱は大きくはない。
3. Locus、genotype、allele はいずれも gene が定義される前から存在する用語であり、従って、本来、locus、genotype、allele に遺伝子（gene）の意味は入っていない。これらはいずれもメンデルの法則を説明するために必要な抽象的な概念であり、その対象は「一塩基多型」「欠失や挿入」「繰り返し配列」「遺伝子」など、さまざまな単位に適用される。従って、遺伝子座、遺伝子型、対立遺伝子などの用語は、その単位が遺伝子に限定されるような誤解を生じやすい。本来の抽象的な概念の定義にもどすため、座位、遺伝型、アレル（アレル、アリアルも可）の訳語を当てる。